

横瀬町合宿誘致推進計画 (案)

～知的資産経営報告書 2012「合宿誘致版」～

平成 25 年 3 月

横 瀬 町

目 次

1	計画策定にあたって	1
	(1) はじめに ～まちづくりの目標と合宿誘致推進～	1
	(2) 計画策定の考え方	2
	(3) 計画策定の手順	4
2	合宿誘致に関連する現況把握	5
	(1) 町の概況	5
	(2) 合宿誘致に関連する主な公共施設	5
	(3) 町内宿泊者現況調査	6
	(4) 民宿・旅館等のヒアリング調査	7
	(5) 周辺市町調査（公共施設利用条件等調査）	8
	(6) 公共施設等利用状況調査	9
	(7) ワークショップによるSWOT（強み・弱み・機会・脅威）分析	10
3	クロスSWOT分析による強み・弱みの抽出	11
	(1) クロスSWOT分析結果	11
	(2) 活かすべき「強み」（＝魅力、知的資産）	12
	(3) 対応が必要となる「弱み」	13
4	「交流型合宿＝よこぜモデル合宿」のビジョン	14
	(1) 「よこぜモデル合宿」の基本理念	14
	(2) 「よこぜモデル合宿」推進上の3つの視点	15
5	価値創造のストーリー	16
	(1) 合宿関連公共施設の充実	16
	(2) 合宿誘致体制の整備	16
	(3) 魅力ある合宿地づくりへの挑戦	18
	(4) ストーリー展開	19
	計画推進のために	20

1 計画策定にあたって

(1) はじめに ～まちづくりの目標と合宿誘致推進～

横瀬町では、平成 22 年度を初年度とする第 5 次総合振興計画（平成 22～31 年度）を策定し、「魅」「絆」「希」の 3 つのワードを基本目標に掲げ、「緑と風が奏でる ころころ和むまち」の将来像実現に向け、新たなまちづくりに取り組んでいます。

【横瀬町の将来像】

「^{みどり}緑と^{かぜ}風が^{かな}奏でる ^{なご}ころころ和むまち」

「緑と風が奏でる ころころ和むまち」という将来像は、町のシンボルである「武甲山」と「横瀬川」を『緑』と『風』に、文化と協働のシンボルである「ヨコゼ音楽祭」を『奏でる』に表現しています。

ころころの豊かさや謙虚さが失われつつある現在、この『緑』と『風』が調和することによって町の魅力をより一層高め、新しい時代を拓くとともに、町民をはじめ、訪れる人々もころころが和むまちをめざします。

具体的には、自然に恵まれころころに残る魅力あふれる美しいまち“よこぜ”を「魅（みりよく）プロジェクト」、みんなが助け合いころころのふれあいを大切にする絆の強いまち“よこぜ”を「絆（きずな）プロジェクト」、誰もが夢と希望に充ちあふれるころころはずむまち“よこぜ”を「希（きぼう）プロジェクト」と位置付け、積極的に推進しています。

【主要プロジェクト】

1. 魅（みりよく）プロジェクト

～自然に恵まれ、ころころに残る魅力あふれる美しいまち“よこぜ”～

2. 絆（きずな）プロジェクト

～みんなが助け合い、ころころのふれあいを大切にする絆の強いまち“よこぜ”～

3. 希（きぼう）プロジェクト

～誰もが夢と希望に充ちあふれる、ころころはずむまち“よこぜ”～

そうした中、「魅（みりよく）プロジェクト」の一環として、町外の音楽団体やスポーツ団体等に対して合宿地として町内施設の利用を拡大することにより、町内各種団体との交流が促進されるとともに、町内の旅館・民宿業をはじめとする商業・観光業などの活性化を図ろうと合宿誘致を推進していくこととしています。

◆横瀬町合宿誘致推進事業とは

スポーツ・文化活動、体験活動、イベント等の合宿誘致をテーマとして、町内のスポーツや文化等に関する活動団体、観光事業者、民間企業、町民、町の協働による合宿者との交流を進めることにより、町民活動や産業振興など地域の活性化を図ることを目的としています。

(2) 計画策定の考え方

本推進計画は、「魅（みりょく）プロジェクト」の一環として策定されることを踏まえ、「横瀬町の魅力（知的資産）」をしっかりと見出して最大限に活かしたものとするため、「知的資産経営報告書」の作成方法に基づいてまとめていきます。

経済産業省によると、・・・「知的資産経営報告書」とは、企業が有する技術、ノウハウ、人材など重要な知的資産の認識・評価を行い、それらをどのように活用して企業の価値創造につなげていくかを示す報告書で、過去から現在における企業の価値創造プロセスだけでなく、将来の中期的な価値創造プロセスをも明らかにすることで、企業の価値創造の流れをより信頼性をもって説明するもの。・・・と定義づけています。

これを、本推進計画に置き換えると・・・「合宿誘致にあたり、横瀬町が有する自然、文化、風土など特有の強み（＝魅力、知的資産）を再認識し、それらをどのように活用して合宿誘致につなげていくかを示す報告書で、これまでの取り組みだけでなく、将来の中期的な価値創造プロセスをも明らかにすることで、横瀬町の観光や合宿者受け入れについて価値創造の流れをより信頼性をもって説明するもの。」・・・と定義づけられます。

その過程における大きな特徴は、

1. SWOT分析をとおして「強み（＝魅力、知的資産）」を抽出
2. 強み（＝魅力、知的資産）を活かした合宿誘致の方法を探りストーリー化があげられます。

◆知的資産

「知的資産」とは特許やブランド、ノウハウなどの「知的財産」と同義ではなく、それらの一部に含み、さらに組織力、人材、技術、経営理念、顧客等とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない目に見えにくい経営資源の総称を指します。「知的資産」は企業の本当の価値・強みであり、企業競争力の源泉です。企業経営・活動は、知的資産の活用なしには成り立たないものなのです。

◆知的資産経営

そのようなそれぞれの会社の強み（知的資産）をしっかりと把握し、活用することで業績の向上や、会社の価値向上に結びつけることが「知的資産経営」なのです。

企業が勝ち残っていくためには、差別化による競争優位の源泉を確保することが必要です。差別化を図る手段は色々ありますが、特に大きなコストをかけなくても身の回りにある「知的資産（見えざる資産）」を活用することによって、他社との差別化を継続的に実現することができ、ひいては経営の質や企業価値を高めることができるのです。

◆知的資産経営報告書

「知的資産経営報告書」とは、企業が有する技術、ノウハウ、人材など重要な知的資産の認識・評価を行い、それらをどのように活用して企業の価値創造につなげていくかを示す報告書です。過去から現在における企業の価値創造プロセスだけでなく、将来の中期的な価値創造プロセスをも明らかにすることで、企業の価値創造の流れをより信頼性をもって説明するものです。

（出典：経済産業省近畿経済産業局「知的資産経営のすすめ」）

また、合宿誘致によるまちづくりの推進は、観光庁が推進する「観光まちづくり」や「着地型観光」の方針にも合致した考え方といえます。

◆観光まちづくり

平成19年6月に閣議決定された「観光立国推進基本計画」では、日本人1人当たりの国内観光旅行宿泊数を1泊延ばすこと、訪日外国人旅行者数1,000万人にすること等がテーマとなっています。

観光立国の実現に向けて、日本各地で熱意と創意工夫による魅力的な観光地づくりが行われています。

(出典：観光庁ホームページ)

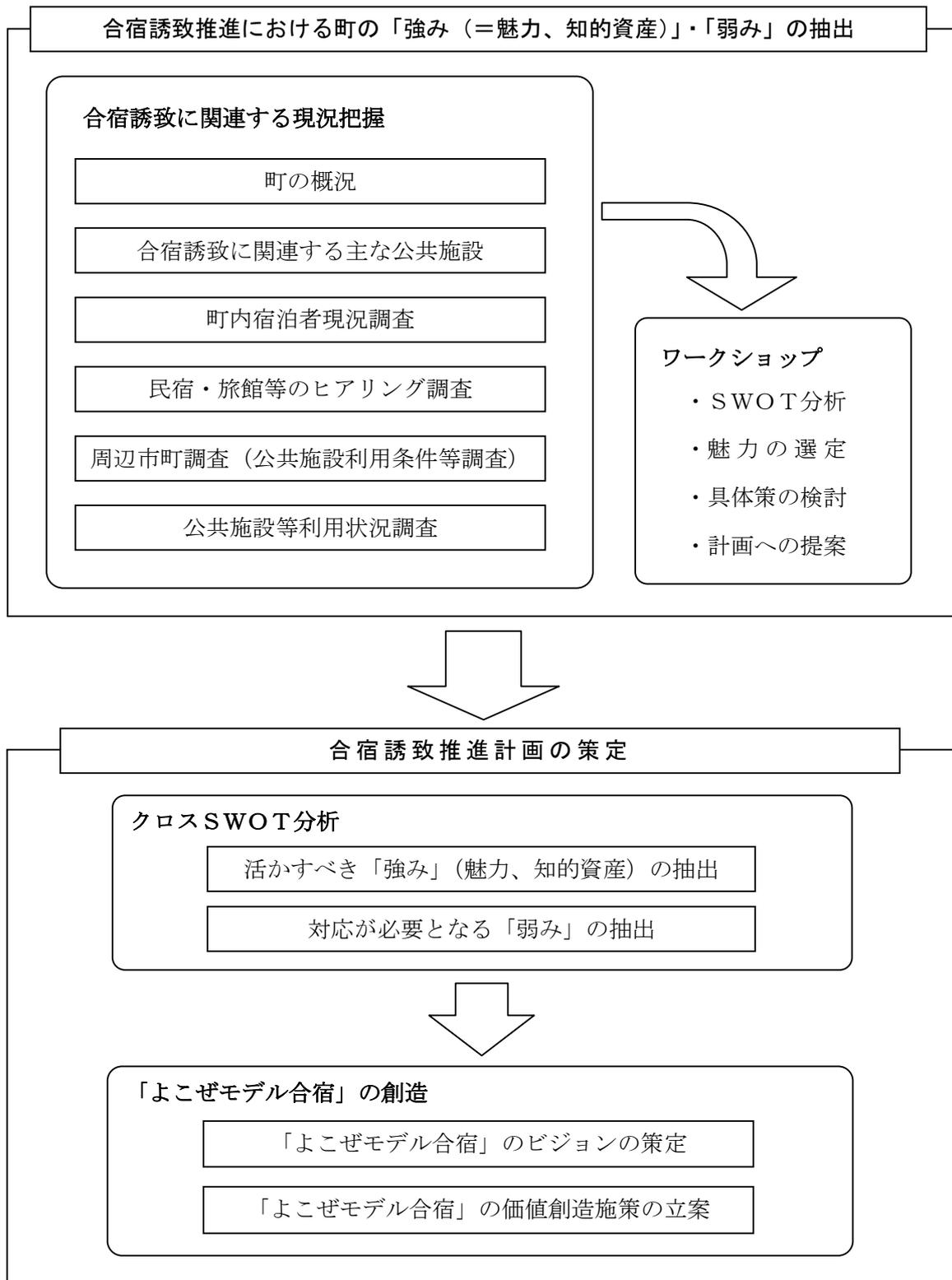
◆着地型観光

旅行者を受け入れる側の地域（着地）側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態を「着地型観光」といいます。独自性が高く、ニューツーリズムをはじめとして、その地域ならではのさまざまな体験ができることから、各地域の魅力を味わううえでおすすめです。

(出典：観光庁ホームページ)

(3) 計画策定の手順

計画策定にあたっては、町内施設の現況や合宿者等の意向を把握します。さらに、合宿誘致は観光事業者、町民、町などの連携が必要不可欠であることから、観光事業者、町内活動団体等によるワークショップを開催し、さまざまな立場からの視点や意見を基に、合宿誘致推進における町の「強み」（＝魅力、知的資産）と「弱み」を抽出し、「よこぜモデル合宿」の確立をめざし本推進計画を策定します。



2 合宿誘致に関連する現況把握

(1) 町の概況

町は、埼玉県の西部、秩父地域の東部にあって都心から70km圏内に位置しています。町域は東西8.2km、南北9km、総面積49.49km²で、東は飯能市、西北部は秩父市に隣接しています。

気候は、山地に囲まれた盆地であるため寒暖の差が比較的大きいものの、四季を通じて概ね穏やかとなっています。

主要道路及び鉄道は、一般国道299号と西武鉄道西武秩父線が東西に走っており、とりわけ鉄道は、横瀬・芦ヶ久保の2駅が設置されています。通勤・通学の足として、また、秩父地域の東の玄関口としての機能を果たしています。

産業は、農林業が中心で、とりわけ果樹を主体とする観光農業が活発です。また、豊かな森林資源と雄大な自然景観、そして札所をはじめとする歴史的な文化遺産も多数有しており、首都近郊の観光地としても知られています。

(2) 合宿誘致に関連する主な公共施設

町内には、町民グラウンドなどの屋外体育施設、スポーツ交流館などの屋内体育施設、ヨコゼ音楽祭などが開催される町民会館（かわせみ会館）などの文化施設があります。

区 分	主 な 施 設
屋外体育施設	町民グラウンド（上グラウンド、下グラウンド） 横瀬小学校（第二グラウンド） 旧芦ヶ久保小学校（グラウンド）
屋内体育施設	横瀬中学校体育館（アリーナA、アリーナB、柔道場、剣道場、卓球場） スポーツ交流館（アリーナA、アリーナB、2階施設） 旧芦ヶ久保小学校（体育館）
文化施設	町民会館（ホールなど） 旧芦ヶ久保小学校（校舎）

(3) 町内宿泊者現況調査

① 宿泊者調査の概要

項目	内容
調査対象者	町内宿泊施設利用者（1グループにつき1調査票回答）
調査実施宿泊施設数	6施設（うち調査回答宿泊施設 4施設）
回答方法	宿泊施設で宿泊者に調査票への回答を依頼し、記入後に回収
回収票数	43票
調査実施期間	平成24年8月10日～8月31日

② 調査結果の概要

項目	概要
宿泊者 (団体) の概要	居住地は、埼玉県南部地域、東京都23区が多く、宿泊グループは、家族で3～5人のグループの宿泊が多く、合宿利用の規模は30～50人ぐらいとなっている。
	宿泊の目的は、合宿（野球団体レク）・大会、川遊び、バーベキュー、温泉入浴が多く、家族グループでは、昆虫採集もあった。
	来訪状況は、滞在日数は1～2日が多く、初めての利用も多いが、リピーターも半数近くを占める。
	移動手段は、自家用車が多く、電車が約3分の1であった。移動時間は、2時間前後となっている。
	予約方法は、直接電話やインターネットが多かった。
合宿者の意向	横瀬町を選定した理由としては、利用したい施設・設備があること、移動時間、宿泊料金、収容人員が重視されている。 <利用したい内容>・川遊び・自然・グリーンツーリズム体験 ・農園・町民グラウンド・音楽ホール
	今後、合宿先を選定する条件としては、利用したい施設・設備の有無、宿泊料金、宿泊施設の収容人員が多いことがあげられている。
意見・要望	グループ利用者からは、緑の多さや山並みの風景から自然の豊かさと心の「いやし」が得られ、獅子舞の祭りなど風情ある行事を楽しめるなどの声が多くあげられているが、店のにぎわいやレンタサイクル、交通の利便性などの要望もあがっている。
	合宿者からは、豊かな自然の中、集中して取り組めるとの声がある一方、グラウンドの利便性の向上についての要望があがっている。

(4) 民宿・旅館等のヒアリング調査

① 宿泊施設の現況

町内の民宿・旅館は、6軒で、全体で59室283名、駐車場120台の受け入れが可能であり、宿泊料金は6,000～14,000円程度となっている。

利用状況は、春休み(3～5月)と夏休み(8月)の時期が多く、主な利用目的は観光(札幌めぐり、川遊びなど)とビジネスが多く、合宿ではサッカーや野球、コーラス、各種体験が多い。

② 主な利用目的

観光では、札幌めぐり、川遊び・バーベキュー、登山・ハイキング、温泉入浴、フルーツ狩り、野菜などの味覚狩り、芝桜、紅葉狩り、秩父神社、三峰神社、蛍、昆虫採取などが多くなっている。

合宿では、サッカー、野球、テニス、合気道、柔道、剣道、大会参加、学生ゼミ合宿、華道、書道、俳句、コーラス、楽器、芝居、幼稚園の自炊体験などがあつた。

その他、イベント・大会での利用やビジネスでの利用があつた。

③ 合宿に対する期待

旅館業者とすると、合宿によるまとまった客数の利用は大いに歓迎という意見が多いが、細かな点(料金など)については、施設により考えが違ふ面もあつた。

合宿誘致に向けては、現在の町民グラウンド等の予約方法の見直しの要望が多いとともに、この問題により機会損失に繋がっているとの声もあつた。

合宿による来客をきっかけに、地域経済の活性化のみならず、スポーツ・文化の振興などに繋げていければという考えもあつた。

合宿以外にも、新たな視点で顧客開拓していくことも必要という意見もあつた。

サッカー大会による合宿利用の実績もあるので、合宿誘致は積極的に進めて欲しいとの要望もあつた。

(5) 周辺市町調査（公共施設利用条件等調査）

区 分	利用申請団体		備 考
	自市町内	自市町外	
横 瀬 町	利用日前月の1日から	利用日前月の同日から	○利用日前月の1日からの申請は、登録団体等のみ可
秩 父 市	利用日前月の1日から	利用前月の15日から	○1～2月にかけて、年間の利用調整を行っている ○荒川総合運動公園は、4月当初に7～8月の利用調整を実施 ○利用団体が市外でも市内宿泊なら1日から予約可 ○文化体育館は、市内、市外問わず3か月前から予約可
小鹿野町	利用日前月の1日から	利用前月の15日から	○体協、スポ少は年間計画により予約可 ○町主催事業、大会は年間予約
皆 野 町	利用日前月の1日から	利用日前月の1日から	○1月中に利用希望を提出し、2月に町内団体、旅館等事業者も含め、利用調整会議を開催し、仮予約をする（町外団体の宿泊利用の場合も可）
長 瀨 町	利用日前月の1日から	利用日前月の1日から	○2月に体協関係の調整会議を開催

(6) 公共施設等利用状況調査（平成 23 年度実績）

施設名 項目	屋外体育施設			
	町民グラウンド		横瀬小学校 第二グラウンド	旧芦小 グラウンド
	上グラウンド A・B	下グラウンド C・D		
日 数	366	366	366	366
利用除外日	6	6	6	122
利用可能日	360	360	360	244
利用日数	132	320	91	29
利用率	36.7%	88.9%	25.3%	11.9%

施設名 項目	屋内体育施設					
	横瀬中学校 体育館	横瀬中学校 柔道場	横瀬中学校 卓球場	横瀬中学校 剣道場	スポーツ 交流館	旧芦小 体育館
日 数	366	366	366	366	366	366
利用除外日	6	6	6	6	6	122
利用可能日	360	360	360	360	360	244
利用日数	247	68	55	95	232	26
利用率	68.6%	18.9%	15.3%	26.4%	64.4%	10.7%

施設名 項目	文化施設	
	町民会館 ホール	旧芦小 校舎
日 数	366	366
利用除外日	64	122
利用可能日	302	244
利用日数	98	56
利用率	32.5%	23.0%

※学校施設の利用状況は、社会教育（体育）活動に利用した状況です。

(7) ワークショップによるSWOT（強み・弱み・機会・脅威）分析

ワークショップにおいて、各種調査を踏まえ、町の合宿誘致における強み・弱み等を整理するためにSWOT分析を行いました。

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	<p>【強み/Strength】</p> <p>設備がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民グラウンドが使える ・野球ができるグラウンドがある ・平日はグラウンド等が利用しやすい ・特に平日は高齢者合宿も対象になる <p>宿泊施設がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設がある（6軒） ・宿泊が40名以上ずつ受け入れ可能 ・温泉がある <p>立地条件が良い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心から近いので交通費がかからない ・交通の便が良い（西武線、国道） ・合宿施設の移動に時間がかからない ・町がコンパクト <p>豊かな自然環境・文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境が良い（空気・水、見晴らし） ・自然（棚田など）がある ・登山・ハイキングコースがある ・オープンガーデンに人気がある ・農地がたくさんある ・芝桜、札所巡りなど観光名所が多い ・野菜・果物が味わえる ・武甲山がある ・手打ちそば・キャンプ体験できる ・小昼飯 <p>いいまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な地域 ・地元の子ども達が良く挨拶をする ・住民に温かみがある ・足並み揃えば大きな効果が見込める 	<p>【弱み/Weakness】</p> <p>設備がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド等の施設が少ない ・グラウンドの水はけが悪い ・グラウンドに日影がない ・人工芝のグラウンドがない ・グラウンドの予約制度が良くない ・グラウンド使用が困難（町外の人） ・ナイター設備がない ・代替の室内施設の確保も困難 <p>立地条件が不利</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秩父市の通過点となっている ・単独では難しく周辺市町との連携が必要 ・商店が少ない ・宿泊しない客もある <p>自然環境の魅力不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者向け観光スポットが少ない ・放射能問題もある ・農地しかない <p>まちづくりの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何の合宿を求めているか分からない ・地域全体がコンセンサスをとれていない ・自然をアピールする宣伝が少ない
外部環境	<p>【機会/Opportunity】</p> <p>新規性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者の誘致 <p>相乗効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西武線とタッグを組める可能性 ・芝桜宣伝の活用 ・音楽祭がいくつかある <p>ネット時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横瀬町への口コミの拡大 ・代理店に頼らず集客できる時代 <p>機運</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合宿誘致の機運 <p>人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー大会を実行できる人材いる 	<p>【脅威/Threat】</p> <p>交流型合宿の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流という条件がきつい ・スポ少と宿泊とグラウンドの調整が困難 <p>ネット時代と少子化時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪い評判が出たときすぐに広がる ・少子化に伴うチーム存続が心配 <p>機運</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本気では困っていない <p>人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合宿を誘致してくれる人が他からアプローチされている <p>競合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秩父以外の自治体の動き

◆SWOT分析

戦略立案を行う際に使われる分析手法で、その組織が持つ強み（S：Strength）、弱み（W：Weakness）、組織の外的環境に潜む機会（O：Opportunity）、脅威（T：Threat）を考慮したうえで評価するものです。

3 クロスSWOT分析による強み・弱みの抽出

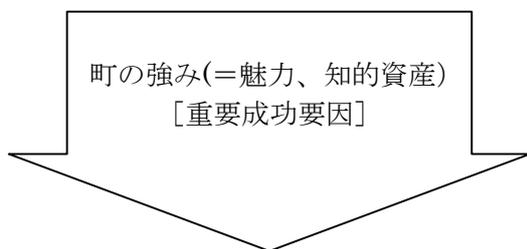
(1) クロスSWOT分析結果

本推進計画では、「魅（みりょく）プロジェクト」の一環として策定されることを踏まえ、「町の魅力（知的資産）」をしっかりと見出すことが重要となります。

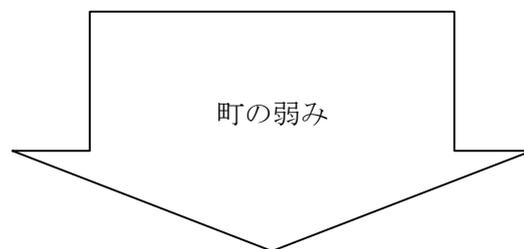
合宿誘致推進に向けて重要な成功要因「強み」となる「横瀬町の魅力（知的資産）」は、ワークショップでのSWOT分析を基にしたクロスSWOT分析から、「立地を活かす」「文化を活かす」「まちづくりを活かす」となります。

一方、合宿誘致の推進における「弱み」は、「合宿関連公共施設」「合宿受け入れ体制」「合宿地としての魅力づくり」となります。

クロスSWOT分析		機会 (O)	脅威 (T)
クロスSWOT分析とは、SWOT分析で行った内部環境×外部環境を、強み (S) ×機会 (O)、強み (S) ×脅威 (T)、弱み (W) ×機会 (O)、弱み (W) ×脅威 (T) の4つの視点で分析し、戦略を立案していくことです。		新規性 相乗効果 ネット時代 機運 人材	交流型合宿の条件 ネット時代と少子化時代 機運 人材 競合
		【積極的攻勢】	【差別化】
強み (S) 設備がある 宿泊施設がある 立地条件が良い 豊かな自然環境・文化 いいまちづくり	今回の合宿推進計画では、「強み (S) ×機会 (O)」について積極的かつ最大限に活用していくこととします。		
弱み (W) 設備（グラウンド）がない 立地条件が不利 自然環境の魅力不足 まちづくりの問題			
		【段階的施策】	【専守防衛/撤退】



- ◆立地を活かす
- ◆文化を活かす
- ◆まちづくりを活かす



- ◆合宿関連公共施設
- ◆合宿受け入れ体制
- ◆合宿地としての魅力づくり

(2) 活かすべき「強み」(=魅力、知的資産)

町の活かすべき強み(知的資産)である「立地を活かす」「文化を活かす」「まちづくりを活かす」について、これまで行った各種調査やワークショップでの意見から、それぞれの内容は次のように整理されます。

立地を活かす

都心から近い、交通費が安い、電車の便が良い(特急、西武線)、道路の便が良い(国道、高速道路)、合宿施設の移動に時間がかからない、町がコンパクト、宿泊施設がある(6軒)、温泉がある、自然環境が良い(空気・水など)、寺坂棚田、見晴らしがよく静かな環境がある、登山・ハイキングコースがある、オープンガーデンに人気がある、農地がたくさんある、芝桜が有名、野菜・果物、武甲山など、立地条件に恵まれていることを合宿誘致に活かしていきます。

文化を活かす

ヨコゼ音楽祭、寺坂棚田ホテルかがり火まつり、芦ヶ久保の獅子舞などの文化的イベント、札所巡り、江戸巡礼古道など文化的観光、小昼飯(みそポテト、ずりあげうどん)、手打ちそばなどの郷土料理など、合宿以外にも楽しめる文化的要素を活かしていきます。

まちづくりを活かす

オープンガーデンとして来訪者をもてなすことや町内の子ども達がよく挨拶をするなど町民にあたたかみがあり、スポーツ・文化団体の活動も活発であり、安心・安全な地域といえます。

まとまりやすい人口規模であることから、これらの足並みを揃えて合宿誘致への大きな効果をもたらしていきます。

(3) 対応が必要となる「弱み」

町の対応すべき「弱み」である「合宿関連公共施設」「合宿受け入れ体制」「合宿地としての魅力づくり」について、これまで行った各種調査やワークショップでの意見から、それぞれの内容は次のように整理されます。

合宿関連公共施設

町内の公共施設は、これまで町内の活動団体が優先して利用していることから、公共施設を合宿活動の場として活用する場合、公共施設の利用が課題とされています。

また、グラウンドなど町内の公共施設数が不足していることも課題とされています。

さらに、町内の公共施設の現状についても、水はけの改善や駐車場の拡張など質の向上も求められています。

合宿受け入れ体制

合宿の受け入れにあたっては、宿泊施設、利用希望公共施設など合宿に関わる各種手配の問い合わせ先が一元化されていないことや合宿誘致を総合的に推進する組織がないことが課題とされています。

また、観光事業者、町民など町全体として合宿者を迎え入れ、おもてなしをするという共通目標や共通認識が必要であるとともに、あらゆる機会・媒体等を活用したPR活動が求められています。

合宿地としての魅力づくり

特色ある合宿地とするためには、利用者にとって魅力的な地域の資源を発掘するとともに、地域との多様な交流形態を模索することが課題とされています。

また、町として積極的に誘致を図る合宿のイメージ（よこぜモデル合宿）を明確にし、他の地域との差別化を図ることが必要とされています。

4 「交流型合宿＝よこぜモデル合宿」のビジョン

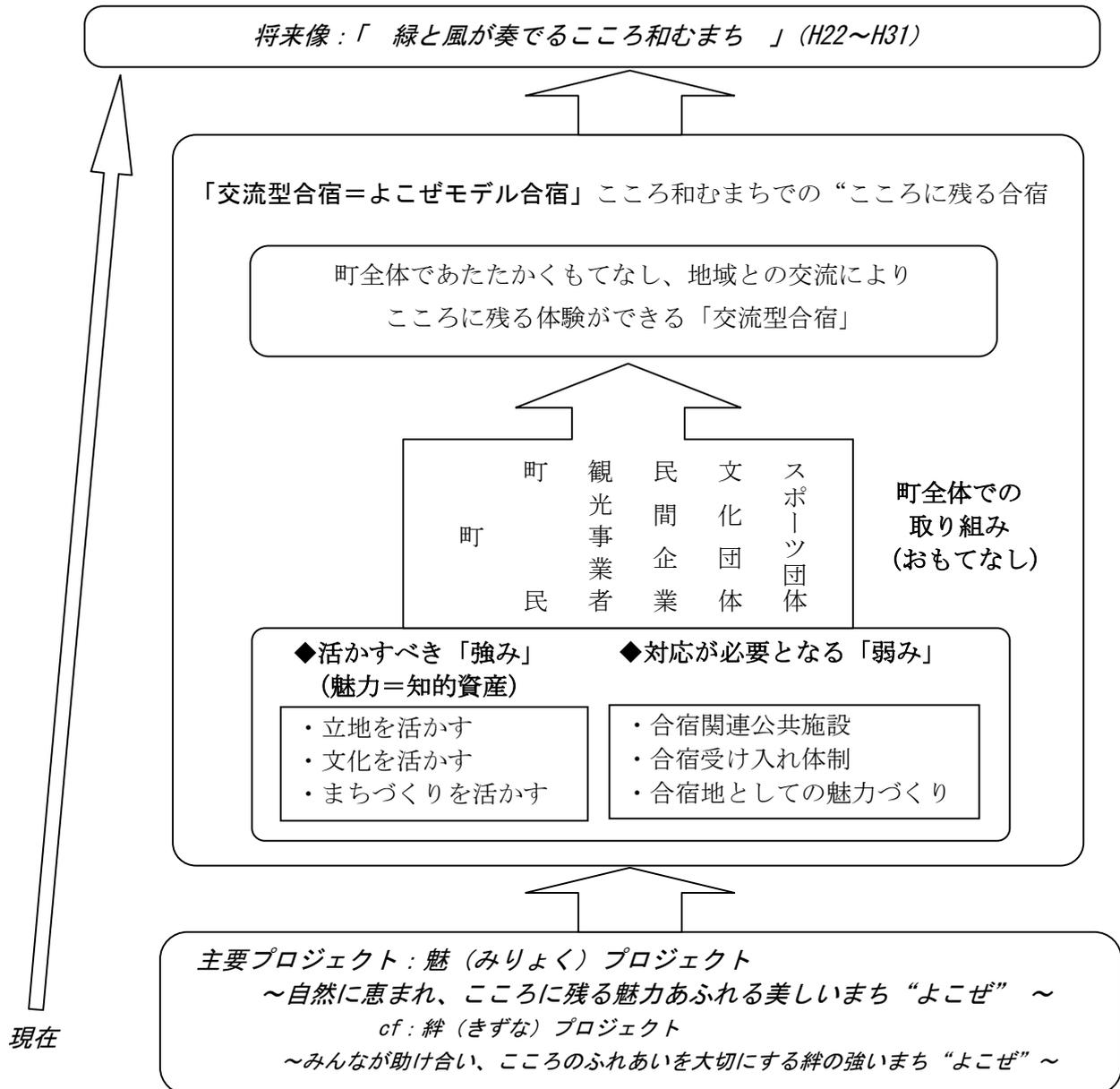
(1) 「よこぜモデル合宿」の基本理念

町の「強み」(＝魅力、知的資産)を活かした合宿誘致とは、町特有の立地や文化、まちづくりを活かした合宿誘致をいい、それを展開していくことが町の将来像「緑と風が奏でる ころ和むまち」を実現していくことといえます。

町の目指す将来像「緑と風が奏でるころ和むまち」に基づいて合宿誘致推進を鑑みると、ころ和むまちでの“ころに残る合宿”づくりをキーワードとして推進することが大切です。

具体的には、町に合宿で訪れたすべての方に“ころに残る合宿”を提供し、そのためには、町内のスポーツや文化等に関する活動団体、観光事業者、民間企業、町民、町が一体となっておもてなしをする姿勢が必要とされます。

そして、町の豊かな自然と特色ある文化、そしてころのふれあいを大切にする町民の気質を強みとして活かし、「よこぜモデル合宿」として町全体であたたかくおもてなし、地域との交流によりころに残る体験ができる「交流型合宿」を推進します。



(2) 「よこぜモデル合宿」推進上の3つの視点

「交流型合宿＝よこぜモデル合宿」の推進にあたって、『活かすべき「強み」(魅力＝知的資産)』を最大限に活かすとともに、『対応が必要となる「弱み」』を強く認識した取り組みを町全体として総合的に進めるため、次の3つの視点(施策)を設定しました。

この3つの視点に「強み」、「弱み」を意識しながら、魅力ある合宿地となるための価値創造のストーリーの展開を図ります。

①合宿関連公共施設の充実

合宿活動の場として、合宿関連公共施設の充実はなくてはならないものといえます。

現在、公共施設の利用予約環境の見直しを進めていますが、利用環境(予約システム等)のさらなる改善、施設の改修などに取り組んでいきます。

また、民間企業が保有する施設の開放について協力要請を引き続き行い、利用可能施設の拡充を進めます。

②合宿誘致体制の整備

合宿誘致の体制づくりにあたっては、合宿誘致を本格的かつ継続的に推進していくため、中心となる組織を設置・運営していきます。

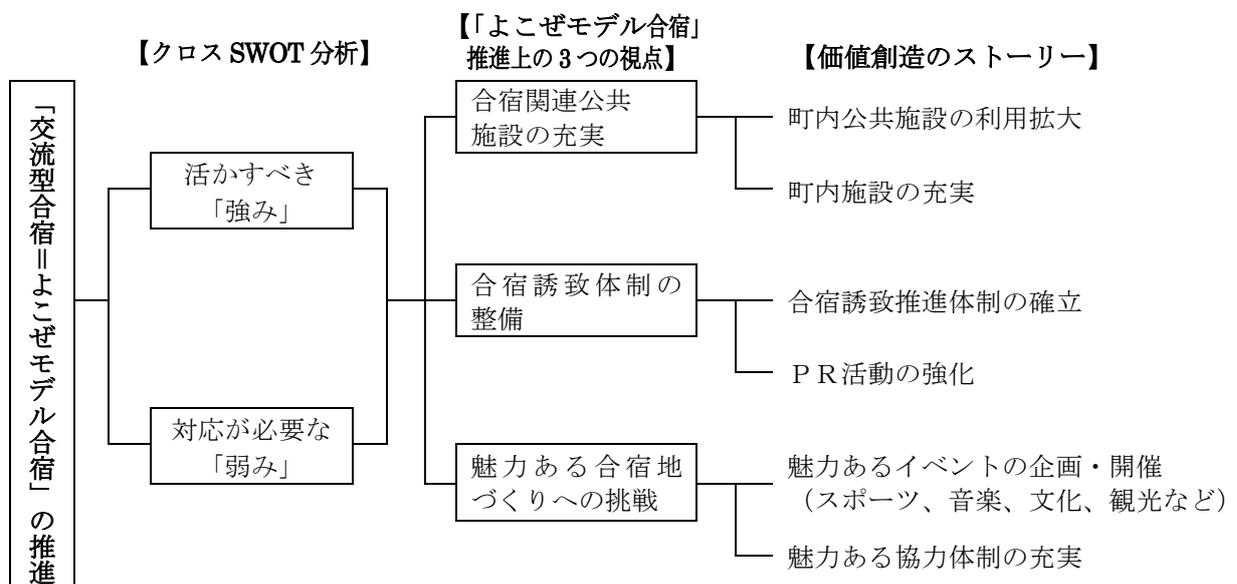
また、あらゆる機会・媒体等を活用したPR活動を関係機関と連携して積極的に取り組んでいきます。

③魅力ある合宿地づくりへの挑戦

魅力ある合宿地づくりにあたっては、合宿誘致に活用できる資源のさらなる発掘や地域との多様な交流ができる特長ある合宿づくりなど、町として積極的に誘致を推進する合宿のイメージ(よこぜモデル合宿)の明確化と具現化に取り組んでいきます。

また、観光事業者等を中心に合宿者のこころに残る交流・体験を提供していきます。

【施策の体系】



5 価値創造のストーリー

(1) 合宿関連公共施設の充実

① 町内公共施設の利用拡大

現在、町内には町民グラウンド、町民会館、旧芦ヶ久保小学校など受け入れ可能な公共施設がありますが、町の条例・規則等では、町内の活動団体が優先して利用できる状況にあります。

このため、町内の活動団体をはじめ町民の理解と協力のもと、合宿誘致を推進できるよう公共施設予約システムの見直しを図り、さらなる利用拡大を進めます。

ワークショップによる提案

グラウンド使用状況のインターネットでの開示
大会や合宿等への例外対応（早期予約）の実現
予約システムの見直し
各町内公共施設の利用者満足度の向上

② 町内施設の充実

魅力ある合宿を提供していくためには、町民グラウンドや町民会館など現在ある施設をより利用しやすくし、より魅力ある施設としてハード面から充実させていくことも必要不可欠となっています。

このため、公共施設の整備・改修や民間施設の開放など合宿利用可能施設の拡充を進めます。

ワークショップによる提案

町民グラウンドの整備（人工芝、天然芝、駐車場、排水対策、夜間照明、プロを呼べる施設）
学校施設の開放（音楽室、旧芦ヶ久保小学校校舎の宿泊施設化、耐震化）
町民会館ホールの改良
スポーツ公園等施設の拡大・集約
民間企業の施設の開放
施設利用の有料化の検討
ボランティアによる設備の改善協力（石ひろい等）

(2) 合宿誘致体制の整備

① 合宿誘致推進体制の確立

合宿誘致を本格的かつ継続的に推進していく体制づくりは、町内のスポーツや文化等に関する活動団体、観光事業者、民間企業、町民、町など町全体での共通認識と共通目標が必要不可欠となります。

このため、合宿誘致に関係する団体等をメンバーとし、合宿に関わる各種手配のとりまとめ組織と合宿誘致を総合的にコーディネートする組織を設置・運営していきます。

ワークショップによる提案

合宿案内所の創設（例：観光協会）
宿泊、昼食、施設利用を一括管理できる窓口の創設
合宿関連情報（宿泊、食事、料金、送迎など）の共有化
合宿誘致推進世話役などボランティア体制の確立
ワークショップ委員会の委員同士の連携
旅館－教育委員会－スポーツ団体の密な連絡・企画ができる体制づくり
知的資産（強み）の継続的な掘り起し
全国各地の情報収集

ワークショップによる提案：「横瀬町合宿案内所」のイメージ

【概要】（活用する魅力＝町内施設・設備の一元予約管理）

- 毎年×月の年間施設利用計画決定後の予約開始
- 宿泊施設、観光施設、町内公共施設の予約状況の把握

【効果】

- 集客数増加による町内経済効果の拡大
- 施設利用率の向上と外部利用からは施設使用料徴収の向上
- 窓口一元化により合宿利用者の利便性の向上

【実現化のステップ】

ステップ1	ステップ2	ステップ3
○予約を1年前から取れるように変更	○予約窓口を一元化	○交流先（対戦チームなど）や体験の案内の実現

②PR活動の強化

合宿誘致を推進していくためには、合宿に関するさまざまな情報を総合的かつ効果的にPRしていくことが重要となります。

このため、よこぜモデルである「こころに残る合宿＝交流型合宿」が提供できることを、関係機関と連携してさまざまな機会・媒体等を通じて積極的にPRしていきます。

ワークショップによる提案

合宿誘致パンフレット（写真入りガイドブック）の作成
町のホームページなどインターネットやブログの活用（クチコミ、フォローなど）
埼玉県 の 広報紙やソフトボール埼玉などの機関紙の活用
鉄道 の 主な駅に合宿誘致のポスターや資料の設置
クラブチームや文化団体などへのダイレクトメール
受入事例のPR活動への積極的な利用
合宿地見学ツアーの企画

(3) 魅力ある合宿地づくりへの挑戦

①魅力あるイベントの企画・開催（スポーツ、音楽、文化、観光など）

町では、ヨコゼ音楽祭を開催し特色あるまちづくりを進めています。今後、合宿誘致を推進していくためには、他にも魅力あるイベントや大会などを企画・立案して開催していくことが大切な要素となります。

このため、町の強みを活かしたイベントの企画・開催をスポーツ、音楽、文化、観光など幅広い観点から進めていきます。

ワークショップによる提案

日程を設定してサッカー、太鼓のイベントの開催
山の傾斜を活用した自転車レースやトレッキング大会の企画
武甲山の上方の平らな部分からまちを眺める企画
各種体験教室など交流型合宿オプションの充実
芝桜、寺坂棚田等の四季折々の観光を活かした合宿の企画
グラウンドゴルフ、サッカー、野球、ソフトボールなどのスポーツ大会の企画・運営
プロスポーツ選手との交流イベント、野球教室、サッカー教室等の企画
札所、座禅、温泉、観光農園、道の駅、オープンガーデン等観光資源を活用したコース化
ヨコゼ音楽祭宿泊プランなど音楽・芸術等を組み合わせた合宿の企画
農家民泊の企画
町内の子どもの交流の充実（ドッジボール等目的種目以外も可）
体育館利用など雨天時の対策
平日合宿の割引サービス

②魅力ある協力体制の充実

町外から多くの合宿者を迎え入れるためには、町全体であたたくもてなすことが求められます。

このため、宿泊施設のみならず関連する観光事業者が中心となって、町ならではの合宿商品企画開発や地域との交流メニューづくり、安心して活動できるメニューづくりなどを進めます。

ワークショップによる提案

飲食店による合宿者向けメニュー、合宿客向け弁当（ごはん大盛り）などサービスの充実
宿泊先や飲食店などのリストの作成（内容、料金等）
宿泊施設による合宿パックの統一化（内容、料金等）
合宿者向け弁当の統一化（内容、料金等）
小昼飯（みそポテト、ずりあげうどん）など郷土料理の活用
宿泊施設や飲食店などによる地域の食材の活用
合宿者向けのこころに残るオリジナルの弁当や食事の開発
鉄道会社との連携による集客
横瀬町ゆかりの人物、キャラクターとの連携（ブコーさん、林家たい平さん等）

(4) ストーリー展開

①展開のステップ

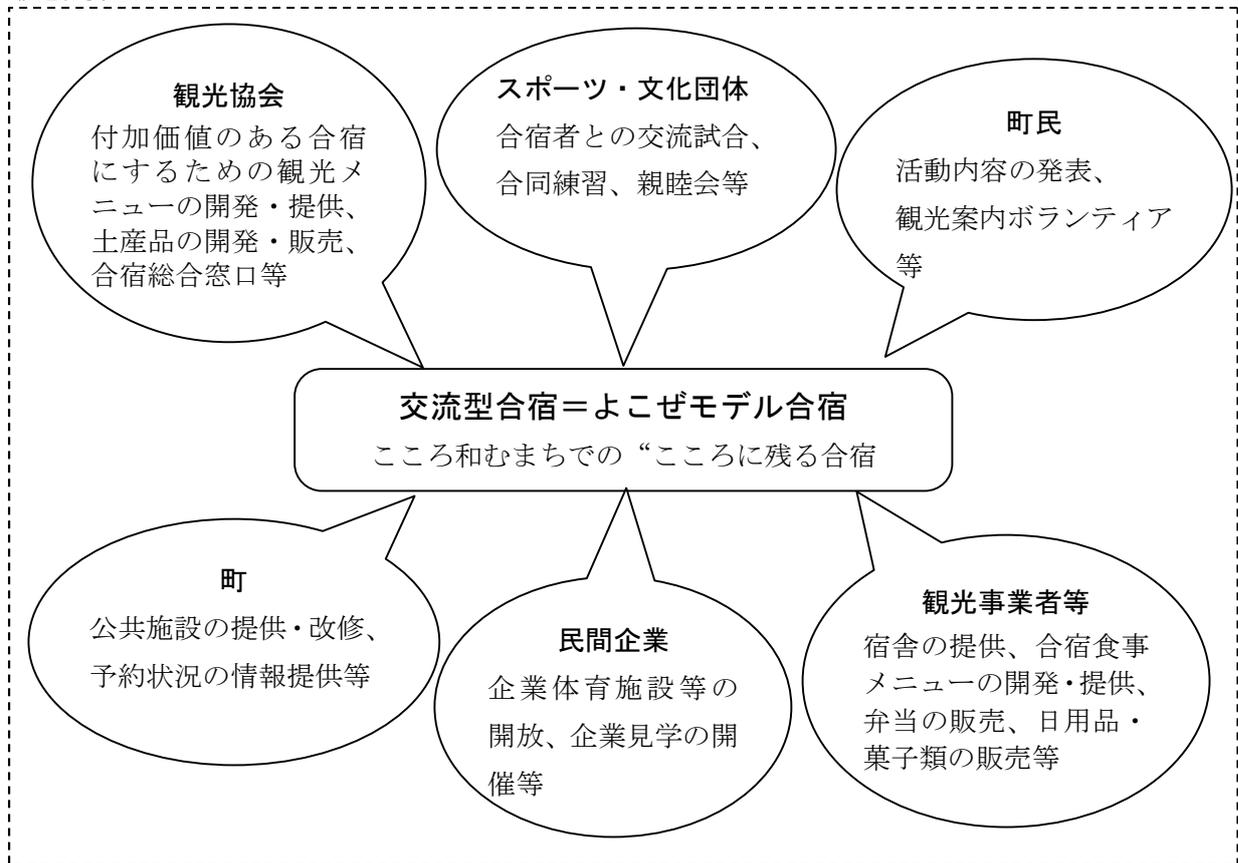
価値創造ストーリーの具体策の展開については、平成 24 年度の推進計画策定や公共施設予約システムの見直し（申請時期・年間の利用日程調整の見直し）を踏まえて、今後概ね 3 ステップに分けて進めていきます。

区 分	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3
●町内公共施設の利用拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・予約管理システムの導入 ・予約状況を町ホームページで閲覧可能 ・予約システムの見直し、検討 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・予約システムの見直し、検討 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・予約システムの見直し、検討 など
●町内施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の改修 ・民間施設の開放 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の改修 ・民間施設の開放 ・利用可能公共施設の拡大 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の改修 ・利用可能公共施設の拡大 ・新たな施設の整備検討 など
●合宿誘致推進体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・検討調整委員会の設置、運営 など ・現状での問題点や課題の抽出、解決 ・役割分担の明確化 ・具体的な提案、目標の設定、提案の実施 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討調整委員会の運営 ・推進組織の選定、運営 ・具体的事業の進行管理 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討調整委員会の運営 ・推進組織の運営 ・具体的事業の進行管理 など
●PR活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・町内合宿経験団体や合宿可能団体などへのPR ・PR連携可能団体の抽出 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内合宿経験団体や合宿可能団体などへのPR ・連携によるPR活動の実施 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内合宿経験団体や合宿可能団体などへのPR ・連携によるPR活動の実施 など
●魅力あるイベントの企画・開催	<ul style="list-style-type: none"> ・既存イベントの拡充 ・新たなイベントの企画立案 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなイベントの企画立案、開催 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなイベントの企画立案、開催 など
●魅力ある協力体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊バックなど合宿商品開発 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊バックなど合宿商品開発 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊バックなど合宿商品開発 など
●広域的な推進	<ul style="list-style-type: none"> ・定住自立圏での取組の検討 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・定住自立圏での取組 ・「遠足・校外学習」など県との連携事業の検討 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・「遠足・校外学習」など県との連携事業 など

②展開の役割分担

本推進計画を展開するにあたっては、合宿誘致を推進していくための組織が確立したのちに、町内のスポーツや文化等に関する活動団体、観光事業者、民間企業、町民、町などがそれぞれ担うべき役割を整理し、推進計画の実現をめざしていきます。

役割分担のイメージ



③広域的な推進

横瀬町のみならず広域的に合宿誘致の推進していくためには、「ちちぶ定住自立圏共生ビジョン」に位置付けられている施策「交流及び移住促進事業」を通じ、秩父圏域の自治体が連携して展開していくことが重要となってきます。

このため、合宿誘致推進事業を「ちちぶ定住自立圏共生ビジョン」に位置付けるよう働きかけていきます。

また、埼玉県で取り組んでいる「遠足・校外学習」や「教育旅行」についても、合宿の一形態として位置付け、埼玉県と連携して誘致を進めていきます。

計画推進のために

本推進計画は、町内のスポーツや文化等に関する活動団体、観光事業者、民間企業、町民、町などが一体となって多くの合宿者を受け入れていく実践的な計画です。

現状を踏まえ、具体的事業の一つひとつ実現化していくとともに、計画そのものをブラッシュアップして合宿誘致を着実に推進していきます。